

小学校社会科授業づくりにおける教師の経験的知見

－第6学年「世界の中の日本」の場合－

田口 紘子〔鹿児島大学教育学部（社会科教育）〕・溝口 和宏〔鹿児島大学教育学部（社会科教育）〕

Teachers' experiential judgment in creating lesson plan for elementary social studies: Focusing on the sixth grade unit "Japan in the world"

TAGUCHI Hiroko・MIZOGUCHI Kazuhiro

キーワード：学習指導案作成過程、社会科、学習指導要領・教科書の解釈、態度形成、異文化理解

I 問題の所在

本研究は小学校教員が社会科授業づくりを行う際の経験的知見を、実際に作成された学習指導案やインタビューの分析から明らかにすることを目的とする。従来の社会科教育学研究においても学習指導案の開発・分析やその作成過程の解明は行われてきたが、その対象の多くは優れた、革新的な学習指導案に限られてきた¹。研究授業の対象となりにくい単元や新しい教材が現れにくい単元において、教師はどのような経験にもとづいて目標の設定、教材の選択、発問を計画するのか。今回は第6学年「世界の中の日本」における「1 日本とつながりの深い国々（アメリカ）」（以下、本主題）について学ぶ時間の学習指導案を事例として取り上げ、その作成者であるY教諭の経験的知見を明らかにしていきたい。

以下では次のような手順に従い、論を進めていく。一般に小学校教員は学習指導要領と教科書にもとづいて学習指導案を作成することが多いことを考慮し、まずそれらの分析を行い、授業づくりの問題となりうる教授上の課題を明らかにする（Ⅱ）。次にY教諭が実際に作成した学習指導案を分析し、先の教授上の課題に対する工夫を明らかにする（Ⅲ）。ここまで明らかにしたことも含め、Y教諭に学習指導案作成過程についてインタビューし（Ⅳ）、本主題における教師の経験的知見としてまとめてゆく（Ⅴ）。

Ⅱ 『小学校学習指導要領』と教科書における本主題の位置づけ

1. 学習指導要領

研究対象とした本主題は『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示、以下、現行学習指導要領）においては第6学年に位置づけられている。本主題が該当する「目標」「内容」「内容の取扱い」を抜粋して示せば以下ようになる。

1 目標

…

(2) 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。

(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

2 内容

…

(3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子

…
 3 内容の取扱い
 …
 (3) 内容の (3) については、次のとおり取り扱うものとする。
 ア アについては、我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げること。その際、それらの中から児童が一か国を選択して調べるよう配慮し、様々な外国の文化を具体的に理解できるようにするとともに、我が国や諸外国の伝統や文化を尊重しようとする態度を養うこと。
 …

本主題との関連が強い箇所には下線を引いている。目標では、調査や基礎的資料の活用、考えたり表現したりする活動を通して「我が国と関係の深い国の生活」を理解するという理解目標と「世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚」させるという態度目標が設定されている。また内容では、「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」を調査させ、「外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること」を考えさせるよう指示されている。その際の授業では「我が国とつながりが深い国から数か国取り上げ」学習するが、「児童が一か国を選択して調べるよう配慮」することが求められている。

これらを達成する上での一番大きな課題は、どのようにすれば態度目標を達成できるかである。というのも現行学習指導要領では「世界の国々の人々と共に生きていくこと」の大切さを自覚させた上で、その共生を実現するためには「異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること」を考えさせなければならないという論理で述べられており、世界の人々との共生をめざす態度を前提にして異文化理解について考えさせ、異文化を理解しようとする態度も形成する必要があると解釈できるからである。すなわち現行学習指導要領での態度形成の論理は、第一段階で共生の大切さを自覚させ、第二段階で第一段階をふまえた異文化

理解への態度を形成することをめざしているのである。このような教授上の課題を教師は授業でどのように解決するのか。現行学習指導要領では明確には述べられていない。それでは学習指導要領に基づいて作成されている教科書では、この二段階の態度形成をどのように行っていこうと考えているのかを次に見ていこう。

2. 教科書

現行学習指導要領にもとづく小学校用社会科教科書は、A: 『あたらしい社会』東京書籍、B: 『小学社会』教育出版、C: 『社会』光村図書、D: 『小学社会』日本文教出版、E: 『小学生の社会』日本文教出版の4出版社5種類が発行されている（以下、教科書はアルファベットで示す）。これらのすべてが「我が国と関係の深い国」として4カ国を取り上げており、「アメリカ」は「中国」とともにすべての教科書で取り上げられている²。

3～4ページのスペースで取り上げられている本主題の記述事項の概要を一覧にし、カテゴリー分けをしたものが表1である。「カテゴリー」列を見れば、5冊の教科書で取り上げられている事項はどれも似通っていることがわかる。教科書ごとに記述の文脈は異なるため、それぞれの事項が登場する順番は教科書ごとに異なったものとなっているが、人々の生活の様子（家庭／学校生活、文化など）、日本とのつながり（貿易、文化など）、アメリカの特徴（多民族国家、世界への影響力）は多くの教科書で取り上げられている。

子どもたちでも理解しやすい生活の様子を取り上げることで「外国の文化を具体的に理解できるよう」配慮するとともに、日本とのつながりを理解させることで、日本とは断ち切ることのできない関係があること、さらには「世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であること」に気づかせようとする意図があると考えられる。しかしながら教科書では日本とアメリカにつながりがあることまでしか記述されておらず、貿易額や輸出入品といったつながりの事実を列挙することにとどまっている。教科書記述は社会の事実が大半を占めており、態度形成という教授上の課題の解決は現場の小学校教諭に委ねられているといえよう。

表1：本主題に関する教科書記述

教科書	ページ	小見出し	カテゴリー	教科書記述の内容	
A	p.44	アメリカの人々の生活	家庭生活	朝食 シリアル、トースト、家族がいっしょに食事をとることがほとんど。	
			学校生活	通学方法 徒歩、自転車、スクールバスなど。服、かばんなど自由。最近では制服の学校も。 人種や民族 さまざまな人種や民族の子ども 忠誠のちかい たくさんの人種や民族の心をついにまとめるため。 人種 人種のがいに対する偏見と差別をなくす動き	
			学校生活	授業 コンピュータの授業重視。自分の考えを述べる機会、スピーチの授業も。 教育制度 飛び級、幼稚園から高等学校までが義務教育。 昼食 給食の学校もあるが、お弁当か売店を利用。 昼休み そうじはしない。 放課後 クラブ活動なし。	
			家庭生活	帰宅後・週末 宿題や遊ぶ。共働きの家の多くはベビーシッター。週末はホームパーティーも。	
			データ	国のあらまし 首都、面積、人口、主な言語、国旗の意味	
	p.46	世界の大国・アメリカ	特徴(子どもの発表)	車 車で移動する人が多い。日本車も乗られている。 広い国土 国内時差。豊かな自然。 移住者 旅行者や移住者が多い。日本人街も。 行事 ハロウィン、クリスマス	
			貿易	さかん。世界各国と貿易。日本にとっても主要な貿易相手国の一つ。	
			工業	発明 自動車の大量生産やコンピュータ産業などアメリカで生まれた。	
			文化	映画・音楽 世界の多くの人が楽しむ。 プロスポーツ 世界各国から選手が集まる。 発祥 ハンバーガー、ジーンズ	
			国際的地位	影響力 世界の大国の一つとして政治や経済の面で大きないきょうをおよぼすアメリカの動きに、世界の多くの人が注目。	
	p.47		ことば	グローバル化 ある国で起きたことが、ときに全世界にいきょうすることもある。	
	B	p.42	貿易で強く結び合っている国アメリカ	データ	国のあらまし 面積、人口、首都、主な言語、あいさつ
				貿易	日本のアメリカからの輸入品 小麦、大豆、果物などの農産物 日本のアメリカへの輸出 自動車、機械製品。日本にとってアメリカは主要な貿易相手国の一つ。
				農業	大規模農業 小麦、大豆、とうもろこしは世界じゅうに輸出。食料の生産地として重要なはたらき。
				工業	発明 常に世界をリード。コンピュータなどの技術を数多く発明。
社会				最先端 宇宙開発などの分野。日本をはじめ、世界各国の人々が参加・協力。 人種や民族 多民族社会。同じ出身国の人々が集まって住むまちも。	
p.43		特徴	広い国土 5時間の国内時差。気候も大きく違う。交通手段として自動車や飛行機が生活になくてはならない。		
			スポーツ さかん。アメリカの野球チームで活躍する日本人選手も多く、試合を生中継で楽しむこともできる。		
			日本食 人気がある。		
			新学期 9月		
			コラム・アメリカの子どもの暮らし	通学方法 スクールバスか家の車。 教育制度 州によって違う。飛び級。 行事 ハロウィン	
p.45	アメリカの国土をながめる	国土 国土が広くて、地形や気候も変化に富んでいる。			
C	p.187	アメリカ合衆国	スポーツ	メジャーリーグ 日本人選手も活やく	
			農業	大規模農業 世界有数の農産物の生産国。	
			貿易	日本のアメリカからの輸入品 国内で消費される小麦、大豆、トウモロコンなどの多くを輸入。日本とアメリカとは、貿易で深いつながり。	
			自分とのつながり	食べもの ファーストフード店によく行く。 スポーツ 野球が好き。 文化 テーマパークが好き。アメリカ映画をよく見る。身近な暮らしも、アメリカの文化の影響を受けている。文化や政治、経済の面で世界に大きな影響を与えている。	
			日本・日本人とのつながり	海外に暮らす日本人 最もたくさんの日本人が暮らす。 基地 アメリカ軍の基地もある。	
	p.188	留學生ニックさんの話	データ	国のあらまし 国旗の意味、面積、人口、言語、首都、日本に住むアメリカ人の数、アメリカに住む日本人の数	
			通学方法	徒歩、スクールバス、家の車	
			学校生活	忠誠のちかい 毎朝、授業の前に、国旗に向かって読み上げる。 昼食 カフェテリアで食べる。家から持ってきたものを食べることも。 教育制度 州や学区によって、小学校に入学する年齢や、通学年数がちがう。 夏休み 3か月 家族と旅行、友達とスポーツ。両親から読書をすすめられた。	
			人気のスポーツ	野球、バスケットボール、アメリカンフットボール	
			遊び	自転車、スケートボード、テレビゲーム	
	p.189	特徴	休み時間	フォースクエア、テザーボール	
			授業	暗記することよりも、どうしてそうなるのかを考えることが大切。ディベートの授業、自分の意見をもつことも大切。	
			自然	変化に富む。多くの国立公園。	
			最先端科学技術	航空宇宙産業やコンピュータ産業。	
			高速道路	自動車がかかせず、高速道路はほとんど無料。	
歴史	アメリカ合衆国ができたのは、日本の江戸時代のとき。				
コラム・さまざまな人が暮らす国	歴史 先住民の暮らしに、イギリスをはじめとしたヨーロッパから移り住んだ人々が作った国。その後もさまざまな人種や民族の人たちが移り住み、多様な文化をもつ国となった。 独立記念日 7月4日、大切にされている日。				
D	p.46	日本とのつながり	データ	国のあらまし 面積、人口、首都、おもな言語を記入。あいさつ。	
			発明	コンビエンスストア、パソコン	
	p.47	子どもの学校生活のようす	日本での生活	アメリカの映画、遊園地 小麦、とうもろこし、オレンジやグレープフルーツ、日本人の好みに合わせた米など、日本への輸出を考えて生産されたものもある。 日本のアメリカへの輸出 自動車、電気機器 日本とアメリカとの関係 アメリカの建国と日米の外交についての年表	
			歴史	もともといた原住民の人々のほかに、ヨーロッパ系、アフリカ系、アジア系など、さまざまな国から移住してきた人々がぐらす。	
			授業	パブリックスピーチ。自分の意見をはっきり言うことをたいせつにしている。	
p.48	くらしのようす	食事	ハンバーガー、ホットドッグ		
		スポーツ	4大スポーツ アメリカンフットボール、野球、バスケットボール、アイスホッケー メジャーリーグ 日本人やいろいろな国の選手が集まり、かつやく。		
			自動車	自動車 なくてはならない。保有台数も世界一。 自動車専用道路 無料の自動車専用道路が発達。	

			文化	アメリカは、ものを輸出するだけでなく、文化も世界に発信。
			人種や民族	アメリカで生み出されたものが、世界じゅうの人々に親しまれていますが、それは多様な人種や民族が、いっしょになってつくり出しているから、みんなの心をとらえている。
p.49	アメリカの祭りを調べよう	祭り	ハロウィン クリスマス	子どもたちに人気のある祭り、おかしをもち、かぼちゃをくりぬいた魔よけ。 キリストの誕生、クリスマスカード、家族が集まる。

E	p.40	自然と産業	データ	国のあらし	国旗ができたいわれ、人口・面積を調べてみましょう。日本の都道府県にあたるものが州。
			国土	広い国土	日本の約25倍
			歴史	自然	西部のロッキー山脈、東部の台地や平野、五大湖、アラスカ州、ハワイ諸島
				移民	歴史は深く、17世紀以降、ネイティブアメリカン(インディアン)とよばれる先住民が住む土地に、ヨーロッパなどから多くの移民がやってきてつくられた国。
			多様な文化	どれいとしてアメリカ大陸から連れてこられた人たちが、日本をふくむアジアからの移住者も多いため、多様な文化が見られる。	
	p.41	工業	最先端の工業技術	多くはアメリカで生み出され、世界に広まった。流れ作業による大量生産のしくみ、コンピュータ。	
			飛行機	日本の空を飛んでいる飛行機の多くは、アメリカでつくられたもの。	
			輸出、広大な牧場・農場	「世界の食料庫」、牛肉の生産は世界第一位、小麦や大豆、とうもろこし	
	p.42	学校や家庭での生活	農業	日本への輸出	日本へ輸出する目的で、日本人の好みにあった米を生産している地域もある。
				広大な畑	散水用のパイプ、円形の畑
			日本とのかわり	日本のアメリカからの輸入品	多種・多量の工業製品や農産物
			日本の会社	アメリカで生産する例	
	p.43	家庭生活	忠誠の誓い	毎朝、国旗に向かって忠誠を誓う、国民としての意識を高めることがねらい。	
			昼食	カフェテリアでも弁当でもよい。	
			1年	州によって差があるが、9月か10月に新学期、翌年の5月か6月で1年間。週五日制、1年が前期と後期。	
通学			スクールバスか家の自動車		
英語			英語があまり話せない人も多く、そうした人の子どものために、特別に英語を教える授業もある。		
授業			自分の意見をいうことがだいじ。		
教科書			ぶっさい教科書		
放課後	学校の部活動ではなく地域のスポーツクラブで運動。				
家族	家族で過ごす時間をだいじに、ホームパーティー。				
食生活	大規模スーパー、大型の冷蔵庫				
キリスト教	教会				

(著者作成。表中で着色した「カテゴリー」は著者が設定した。また太枠線で囲まれた箇所はコラム欄などの独立した囲み事項を示す。)

Ⅲ 学習指導案およびその作成過程の特徴

1. 分析対象の学習指導案について

小学校教諭は態度形成をどのように扱うのかを明らかにするためには、本主題の学習指導案の収集が欠かせないが、本主題で学習指導案を掲載や公開している事例はほとんどなかった。本主題が学ばれるのは一般的に第6学年の2月頃であり、卒業式の準備等で十分な学習時間が確保されにくいことが背景にある。親交のある教員からも学習指導案を作成せずに授業を行ったという回答しか得られなかった。

そこで本研究では、教員歴17年の男性小学校教諭(以下、Y教諭)に本主題の学習指導案作成を依頼し、それを分析対象とすることとした。Y教諭は、在籍校で実践することを想定した資料1のような学習指導案を作成した。

2. 単元計画の特徴

全9時間の指導計画は、「日本とつながりの深い国の人々はどのような暮らしをしているのだろうか」という学習問題のもと、「韓国」「サウジアラビア」「中国」そして「アメリカ」について調べさせ、調べたことを新聞にまとめる問題解決的な学習として構成されている。資料1「5 指導

計画」中の太枠線で囲まれている部分が本研究の着目する「アメリカ」が取り上げられる本時である。

本単元計画の特徴として学習目標と内容の観点から2点挙げる。まず目標であるが、学習指導要領をふまえ「異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること」を理解させようとしている。この異文化理解は、学習指導要領が求める第二段階目の異文化理解の態度の形成につながるものとなる。内容も学習指導要領や教科書と同様に、「日本との結びつき(人、文化、経済)」「生活の様子(衣食住、習慣、行事)」「その国の特徴(言語、習慣、考え方)」を調査観点にして調べさせようとしている。詳細は学習指導案「6 本時」を取り上げる次節で見よう。

3. 本時の特徴

本時は、アメリカの概要と日本との結びつきを学ぶ7時間目と日米の学校生活の違いとその理由を学び、どちらがよいかを考える8時間目からなる。単元計画の特徴との関連から考察すれば、本時の特徴として次のことが指摘できよう。

単元の目標「異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であること」を理解させるために、8時

間目において「日米のどちらが良いのかを考え、それぞれの立場で話し合う」活動が組み入れられていることが特徴の1つである。児童に調べたことを発表させるだけで終わる学習とならないよう、日本人の立場だけでなく、アメリカ人の立場で考えさせ、児童たちに日本を前提にして学校生活のよさを判断することは適切ではないこと、「自分たちの国だけの価値観」では異文化を理解することはできないという態度を形成しようとしている。

また学習内容面では、学習指導要領や教科書で取り上げられている事項をまんべんなく取り扱おうとしていることが特徴といえる。7時間目の日米の貿易品とアメリカの特徴（多民族社会と世界の政治・経済の中心）や8時間目の学校生活のようすは、学習指導要領の求める「異なる文化や習慣」や日本と「経済や文化などの面でつながりが深い」ことを取り上げていると判断できる。

4. Y教諭の学習指導案作成の特徴

以上のことから、Y教諭は学習内容となる具体の事例については主に教科書にある事項を参考としながらも、目標の設定に当たっては学習指導要領にある異文化理解の態度の形成を強く意識し、日米の学校生活の良さを議論する活動を取り入れ学習指導案を作成していた。つまり学習指導要領に述べられている第二段階目の態度形成は重視されていたが、その前提となる共生の大切さを自覚させる第一段階目の態度形成のための活動や説明は、学習指導案には組み込まれていないのである。

次節では実際にY教諭に学習指導案の作成過程についてインタビューすることで、共生の大切さを自覚させる部分が省略された理由と日本の教師が他国とくにアメリカについて教える時に駆使する経験的知見について明らかにする。

IV Y教諭へのインタビューの分析

1. 共生の大切さを自覚させる部分の欠落

アメリカについて教えたかったことを尋ねた際³、Y教諭は「お互いの文化の違いを理解し合うことが大切であるという態度面を教えたかった」と述べ、異文化理解が大切であることを考え

させ、それを態度として身につけさせることができると考えていることがうかがえた。学習指導要領にある態度形成の第一段階目であった共生の大切さへの態度は、教科書や教師にとっては自明のものとして扱われており、共生を実現する上での他国の文化を尊重する態度の方が重視されているといえよう。なぜ世界の人々との共生が必要なのかについては子どもたちに考えさせることはないため、日本とのつながりやアメリカの特徴は事実として列挙するにとどまり、態度面の形成には直接的には関連しない扱いとなっている。

2. アメリカの重視

Y教諭のインタビュー中で多く語られたのが、「世界の中の日本」を学ぶ際のアメリカの重要性である。子どもたちの持ち物にはアメリカ生まれのキャラクターが描かれており、子どもたちの会話や日記に現れる外国もほとんどがアメリカだと話し、アメリカが子どもにとって一番身近な外国であり、授業で重点的に取り上げたかったと述べている。しかしながら、8時間目に日本と比較させる題材としてアメリカを選択したのは、教科書Aの教師用指導書で提案されていた活動であったからと述べており、その点では子どもの実態よりも教師用指導書にもとづいて計画された活動といえよう。

V おわりに

事例としたY教諭の小単元「世界の中の日本」における授業づくりの分析から仮定される、小学校教諭の社会科授業づくりにおける経験的知見として次の2点が指摘できる。第一に授業目標については学習指導要領が強く意識されるが、授業内容の具体的な事項や活動については教科書や教師用指導書が参照されること。子どもの実態などの把握にも配慮する一方、教科書で取り上げられる事項についてはすべて授業で網羅するようにも配慮しており、授業づくりで中心となるのは教科書や教師用指導書であるといえる。第二に学習指導要領で記述されている態度の形成であっても、学習指導要領や教科書、教師用指導書においてその形成方略が不明確な場合には教師が学習指導案に組

み入れるきっかけを失ってしまう可能性が高いことである。

今後は他の事例でも検証していきたい。

<学習指導案中の資料>

- ①「アメリカの国旗・地図・面積・人口・首都・主な言語・国旗の意味」『社会科資料集6年』, 教育同人社, 2010年, p96。
- ②「アメリカの地図」教科書A, p. 47。
- ③「サラダボール」マイクロソフト社、クリップアート素材集 (<http://office.microsoft.com/ja-jp/images/results.aspx?qu=%E3%82%B5%E3%83%A9%E3%83%80&ex=1&origin=FX010132103>) 2012年7月20日取得。
- ④「日本の輸出入相手国」教科書A, p. 46。
- ⑤「日本とアメリカの貿易」教科書A, p. 30。
- ⑥「わが国のおもな輸出入」『楽しく学ぶ小学生の地図帳』帝国書院、2008年、p. 61。
- ⑦「高速道路網」教科書B、2005年、p38。
- ⑧「広大な農地」『社会科資料集6年』, 教育同人社, 2010年, p97。
- ⑨「航空機産業」同上。
- ⑩「サンフランシスコのチャイナタウン」教科書B, p. 38。
- ⑪「スクールバスでの通学」教科書A, p. 44。
- ⑫「アメリカ合衆国の人種別人口割合」『社会科資料集6年』, 教育同人社, 2010年, p97。
- ⑬「オバマ大統領」教科書A, p. 47。
- ⑭「ニューヨーク」『社会科資料集6年』, 教育同人社, 2010年, p96。
- ⑮「ライアンさんのある一日 1」教科書A, p. 44。
- ⑯「ライアンさんのある一日 2」教科書A, p. 45。
- ⑰「ALTの先生への実際のインタビュー結果」Y教諭作成。

² その他の国としては「韓国」(教科書A、B、D)、「サウジアラビア」(教科書A、C)、「ブラジル」(教科書B、C、D、E)、「エジプト」(教科書E)が取り上げられている。

³ 2012年8月20日に実施。「アメリカについてどのように教えようと思ったか」「学習過程と目標をどのように計画したか」などを中心に尋ねた。

¹ 全国社会科教育学会編著『優れた社会科授業の基盤研究I 小学校“優れた社会科授業”の条件』明治図書、2007年など。近年では吉川幸男氏も本研究と類似した研究関心を寄せている(「歴史授業のための『問い』の設定をめぐる拠点の構造—教材研究から発問構成までの教師の仕事を手がかりに—」『社会科研究』第74号、2011年、pp. 1-10)。

資料1：Y教諭が作成した学習指導案

第6学年 社会科学習指導案

6年 組 男子 名 女子 名 計 名
指導者 Y

1 単元名 世界の中の日本（1 日本とつながりの深い国々）

2 目標

- (1) 日本は経済や文化などで世界の様々な国々と深いつながりがあることに関心をもち、日本とつながりが深い国々の人々の生活の様子を意欲的に調べようとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 世界の人々と共に生きていくためには、外国の人々の生活や文化を理解し、お互いに尊重し合うことが大切であることを考え、表現することができる。（思考・判断・表現）
- (3) 日本と外国との文化や自然の違いについて、地図や写真、資料集、インターネットなどを効果的に活用して調べることができる。（技能）
- (4) 外国の文化や生活の様子を調べるを通して、文化や生活習慣の多様さや共通性に気づき、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることが分かる。（知識・理解）

3 単元について

本単元は、学習指導要領の内容（3）「世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。」を基に構成されている。それを受けた本小単元の主な学習内容は、「ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」を調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であることを考えることである。本単元の内容の取扱いについては、「教師が我が国とつながりが深い国から数か国を取り上げ、その中から、児童一人一人が自らの興味・関心や問題意識などに基づいて、調べる国を一か国選択して調べるように配慮することが必要である。」が示されている。

日本と関係の深い国々の人々の生活の様子を調べることは、外国の人々の文化や習慣の違いに触れ、その違いを理解し尊重する態度を養い、外国の人々と共に生きる上で大切な学習である。外国の人々の生活の様子を調べる際に、様々な情報の中から必要なものを選択する活動を通して、情報収集・選択の能力や資料活用能力を高める上でも意義深いものである。

4 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、1小単元1サイクルの時間設定での問題解決的な学習が進められるように単元を構成したい。導入では、地図帳や地球儀を活用させ、自分なりの世界地図を作る活動を通して、世界には多くの国があり、多くの人々が生活していることに気づかせたい。次に、日本を中心とした貿易による輸出・輸入のつながりから、関係の深い国々にはどんな国があるのかをとらえさせ、学習問題設定へとつなげたい。追究段階では、学習指導要領では「調べる国を一か国選択して調べるように配慮する」と示されているが、単なる調べ学習では、ねらいである「異なる文化や習慣を理解し合うことが大切である」ことは達成できないと考えるため、つながりの深い主な国について全体で追究する活動を取り入れる。つながりの深い国とは、具体的には韓国、サウジアラビア、中国、アメリカ合衆国の4か国である。いずれも貿易などの経済面、歴史的なつながり、文化面でのつながりなど生活の中に深くかかわっていると考えられる。これらの国々の文化や習慣を調べ、日本との関係や違いを見つけていく活動を通して、ねらいに迫ることができると考える。終末段階では、学習活動を振り返り、自分の関心のある国を選択し、調べ、発表会をすることを予告し意欲を持って取り組むことができるようにつなげていきたい。

5 指導計画 (全9時間)

(※太四角枠□は、本時)

過程	主な学習活動	子どもの意識の流れ	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	<p>1 地図帳や地球儀を見たり触ったりして、自分たちが知っている国を発表したり、位置を確認したりして関心を高める。</p> <p>2 身の回りの生活や文化、日本との貿易額を基に、日本とのつながりが深い国を探し、学習問題を作る。</p> <div data-bbox="233 444 624 511" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 日本とつながりの深い国の人々はどのような暮らしをしているのだろうか。 </div> <p>3 学習問題について予想し、調べる内容や方法について計画を立てる。</p> <p>[調べる内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本との結びつき (人, 文化, 経済) ○ 生活の様子 (衣食住, 習慣, 行事) ○ その国の特徴 (言語, 習慣, 考え方) <p>[調べる方法]</p> 教科書, 資料集, 地図帳, インターネット資料など		<p>資 実物 (世界地図, 地球儀)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳や地球儀をもとに自分だけの世界地図を作る。 ○ 調べたことや知っていることを白地図に記入させる。 <p>資 絵図 (日本の輸入・輸出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵図をもとに日本とつながりが深い国はどこかを読み取らせる。 ○ 貿易面からだけでなく, 身の回りの生活や文化に入りこんでいる外国のものについても目を向けさせる。 ○ これまで社会科や他教科等で学習してきたことも想起させ, つながりが深い国を複数絞り込む。 ○ 複数追究する国が決まったら, 事前にインターネットや新聞等で資料を集めておくことを指示しておく。 ○ 教科書, 資料集をもとに, 韓国の気候や儒教の考え方などが衣食住に影響を与えていることをとらえさせる。 ○ 教科書, 資料集をもとに, イスラム文化の影響や石油をめぐる日本との関係に目を向けて考えさせる。 ○ 教科書, 資料集をもとに, 漢字や食文化など歴史的につながりが深いことや経済発展を続け発展していることをとらえさせる。 ○ 教科書, 資料集をもとに, 多民族国家であるアメリカの特徴をつかみ, 日本との関係について, つながりが深いことをとらえさせる。 ○ 日本とアメリカの学校生活の違いをもとに, なぜこのように違うのかを考えさせ, それぞれの国の事情があることに気づかせる。 ○ 日米のどちらがよいか自分なりに考えさせ, 意見交換を行うことで, お互いの国を理解するとはどういうことかを考えさせる。 ○ 世界の国々とのつきあい方にも同じことが言えることに気づかせ, 小単元をまとめる。
	調べる	<p>4 韓国の人々の暮らしを調べる。</p> <div data-bbox="240 830 624 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習の主な視点 韓国の気候 儒教の考え方 衣食住 </div> <p>5 サウジアラビアの人々の暮らしを調べる。</p> <div data-bbox="240 937 624 1004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習の主な視点 イスラム文化と習慣 石油 </div> <p>6 中国の人々の暮らしを調べる。</p> <div data-bbox="240 1033 624 1101" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習の主な視点 伝わったもの 結びつき 経済発展 </div>	<p>7 アメリカ合衆国の人々の暮らしを調べる。</p> <div data-bbox="240 1130 624 1197" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習の主な視点 世界の中心 貿易 多民族国家 </div>
まとめる・生かす	<p>9 調べたことをもとに, 新聞にまとめる。</p> <p>(総合的な学習の時間を使って調べ, 発表会を実施する。)</p>	<p>世界には様々な国があり, それぞれ特徴がある。どれが良い, 悪いとは言えない。だから, 日本は世界の国とどうつきあっていけばいいのかな。</p>	<p>○ 教科書, 資料集をもとに, 漢字や食文化など歴史的につながりが深いことや経済発展を続け発展していることをとらえさせる。</p> <p>○ 教科書, 資料集をもとに, 多民族国家であるアメリカの特徴をつかみ, 日本との関係について, つながりが深いことをとらえさせる。</p> <p>○ 日本とアメリカの学校生活の違いをもとに, なぜこのように違うのかを考えさせ, それぞれの国の事情があることに気づかせる。</p> <p>○ 日米のどちらがよいか自分なりに考えさせ, 意見交換を行うことで, お互いの国を理解するとはどういうことかを考えさせる。</p> <p>○ 世界の国々とのつきあい方にも同じことが言えることに気づかせ, 小単元をまとめる。</p>

6 本時（7／9）

目標・・・世界におけるアメリカの特徴がわかり、貿易や文化において日本とも深いつながりがあることがわかる。

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
<p>↑</p> <p>つかむ・立てる</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>調べる</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>まとめる</p> <p>↓</p>	<p>1 アメリカの国旗や地図をもとに、アメリカについて関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国旗には意味があるんだ。 ・面積は日本の25倍もある。 ・人口は日本の約2倍以上。 <p>2 提示された「サラダボール」を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとどう関係があるのかな。 <p>3 本時の学習問題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>アメリカ合衆国はどんな国で、日本とはどのような結びつきがあるのだろうか。</p> </div> <p>4 学習の進め方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人調べ→グループでの話し合い→全体での話し合い ・資料→教科書、資料集、自分の根拠となるも、グループのまとめ <p>5 日本との貿易について話し合う。</p> <p>(1) 日本からの輸出から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車が多いのはなぜだろう。 <p>(2) アメリカからの輸入から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料品が多いのはなぜだろう。 ・飛行機やコンピューターも輸入しているのはなぜだろう。 <p>6 ほかに、どんなとくちょうをもっているのか話し合う。</p> <p>(1) 多民族社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカと「サラダボール」はどんなつながりがあるのだろうか。 <p>(2) 政治・経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの大統領をテレビでよく目にするのはなぜだろう。 ・ニューヨークの街もよくテレビで見ぞ。 <p>7 本時の学習についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の主要な貿易相手国である。 ・世界の政治・経済の中心であり、さまざまな人種や民族が集まっている。 ・アメリカで生まれた文化は日本にも伝えられている。 </div> <p>8 次時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの学校生活はどうか。 	<p>↑</p> <p>8</p> <p>分</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>32</p> <p>分</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>5</p> <p>分</p> <p>↓</p>	<p>④①②絵図（アメリカの国旗、アメリカの地図）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図帳で位置を確認させる。 ○ 国土の大きさ、人口の多さ、国旗の意味に気づかせる。 <p>④③写真<実物>（サラダボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既有的知識では理解できないであろう物を提示し、「アメリカはどんな国なのだろう」という意欲を高める。 <p>④④円グラフ（日本の輸出入相手国）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グラフから、アメリカが日本の主要な貿易相手国であることをとらえさせる。 <p>④⑤⑥グラフ（日本とアメリカの貿易）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本からの輸出品の第一位が自動車であることから、アメリカが自動車中心の国であることに気づかせる。→④⑦写真（高速道路網、自動車工場） ○ アメリカからの輸入品の第一位が食料品であることから、アメリカが大規模農業による生産国であることに気づかせる。→④⑧写真（広大な農地） ○ また、輸入品の中に飛行機やコンピューターがあることから、航空産業や宇宙産業においても進んでいることに気づかせる。→④⑨写真（航空機の工場） ○ さらなる追究を深めるため、サラダボールを再提示し、サラダボールが意味することを考えさせる。 <p>④⑩⑪写真（チャイナタウン、スクールバスでの通学の様子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サラダボールのヒントとして提示する。 <p>④⑫グラフ（アメリカ合衆国の人種別人口の割合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アメリカには様々な人種や民族がいっしょに生活していることに気づかせ、「サラダボール」と表現されることを知らせる。 <p>④⑬⑭写真（オバマ大統領、ニューヨーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日ごろテレビや新聞でよく目にすることから、世界の政治や経済の中心であることに気づかせる。

7 本時 (8/9)

目標・・・アメリカと日本の生活の様子を比較することにより、異文化についての関心や理解を深める。

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ																								
<p>↑</p> <p>つかむ・立てる</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>調べる</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>まとめる</p> <p>↓</p>	<p>1 アメリカの学校の時間割から気づいたことや疑問に思ったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の間に休み時間があまりないぞ。 ・ コンピューターの時間があるぞ。 ・ 下校時刻が早いぞ。 <p>2 学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>アメリカと日本の学校生活の違いを調べ、どちらがよいか考えよう。</p> </div> <p>3 調べる観点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登校の様子 ・ 学習の様子 ・ 昼食の様子 ・ 放課後の様子 <p>4 学習の進め方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人調べ→グループでの話し合い→全体での話し合い ・ 資料→教科書、資料集、自分の根拠となるも、グループのまとめ <p>5 調べたことをもとに、日本との違いを話し合い整理する。</p> <p style="text-align: center;">アメリカと日本の学校生活の違い</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>アメリカ</th> <th>観点</th> <th>日本</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シリアル、トースト</td> <td>朝食</td> <td>ごはん、パン</td> </tr> <tr> <td>スクールバス</td> <td>登校</td> <td>徒歩</td> </tr> <tr> <td>忠誠のちかい</td> <td>朝の会</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>コンピューターだけの授業がある。</td> <td>学習</td> <td>コンピューターだけの授業はない。</td> </tr> <tr> <td>お弁当 売店</td> <td>昼食</td> <td>給食</td> </tr> <tr> <td>子どもはしない</td> <td>掃除</td> <td>子どもがする</td> </tr> <tr> <td>少年団活動はない</td> <td>放課後</td> <td>少年団</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 アメリカ人ALTの先生が日本の小学校に初めて来たときの驚きを予想し、日米文化の相違点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制服 ・ 給食 ・ 徒歩通学 ・ 掃除 など <p>7 事前にインタビューした結果から、日米の違いがあるわけを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教の違い ・ 考え方の違い ・ 文化の違い ・ 多民族社会 <p>8 日米のどちらが良いのかを考え、それぞれの立場で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の方がよい。 ・ アメリカの方がよい。 ・ どちらもよいのでは。 ・ どちらがよいとはいえない。 <p>9 本時の学習についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分たちの国だけの価値観で外国の文化を見てはいけな。お互いが理解することが必要である。</p> </div>	アメリカ	観点	日本	シリアル、トースト	朝食	ごはん、パン	スクールバス	登校	徒歩	忠誠のちかい	朝の会	×	コンピューターだけの授業がある。	学習	コンピューターだけの授業はない。	お弁当 売店	昼食	給食	子どもはしない	掃除	子どもがする	少年団活動はない	放課後	少年団	<p>↑</p> <p>3</p> <p>分</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>40</p> <p>分</p> <p>↓</p> <p>↑</p> <p>3</p> <p>分</p> <p>↓</p>	<p>④⑮表 (アメリカの時間割の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の時間割から日本との違いがあることに気づかせる。 ○ 「アメリカと日本とどちらがよいのだろう」と問い、もう少し詳しく調べないと判断できないことを認識させ、学習問題につなげる。 <p>④⑮写真・説明 (朝食の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洋食の文化、家族で一緒に食べることから日本との違いを明確にさせる。 <p>④⑮写真・説明 (バスでの通学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バスでの通学のほか、徒歩や自転車などさまざまな方法で通学している様子に気づかせる。 <p>④⑮写真・説明 (忠誠のちかい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なぜ、このようなことが必要なのかを考えさせる。多民族社会であることから心をつににする意味があることをとらえさせる。 <p>④⑮写真・説明 (授業の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の特徴のほかに、飛び級や義務教育制度や教科書などの違いにも目を向けさせる。 <p>④⑮写真・説明 (昼食・掃除・放課後の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多民族社会で文化や習慣の違いから給食では対応できないことを考えさせたい。 ○ ALTの予想点はなぜそう考えたのかを理由をつけて発言できるようにさせる。 <p>④⑮結果 (インタビュー結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ALTのインタビュー結果を示すことで自分たちの見方だけでなくアメリカからの見方も考えさせる。 ○ 日本が単一民族に近い国であること、アメリカはさまざまな民族がいつしよに暮らす国であること等、それぞれの国の事情の違いが生活の違いになっていることをとらえさせる。 ○ 「どちらがよいか」と問い、そのわけを考えさせることにより、自分の国だけの判断基準だけではどちらがよいという判断はできないということに気づかせたい。
アメリカ	観点	日本																									
シリアル、トースト	朝食	ごはん、パン																									
スクールバス	登校	徒歩																									
忠誠のちかい	朝の会	×																									
コンピューターだけの授業がある。	学習	コンピューターだけの授業はない。																									
お弁当 売店	昼食	給食																									
子どもはしない	掃除	子どもがする																									
少年団活動はない	放課後	少年団																									